

2023年度
決算説明資料

 三菱ガス化学株式会社

2024年5月10日

証券コード
4182



1 | 2023年度 決算概要

2 | 2024年度 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

はじめに「2023年度決算概要」、次に「2024年度業績予想」、
続いて「セグメント別業績概要」という順でご説明いたします。

1 | 2023年度 決算概要

2 | 2024年度 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

まず、2023年度業績についてご説明します。

2023年度 業績サマリー



営業利益は、電子材料の需要回復やPC※1の採算改善等がプラス要因も、POM※2の市況下落や芳香族化学品の需要低迷などにより減益
経常利益は、海外メタノール生産会社の持分法損益悪化などにより減益

※1 PC=ポリカーボネート ※2 POM=ポリアセタール

単位:億円	2022年度 実績	2023年度 実績	増 減		2023年度 従来予想*	増減 金額
			金額	%		
売上高	7,812	8,134	+322	+4.1	8,000	+134
営業利益	490	473	▲16	▲3.5	460	+13
経常利益	697	460	▲237	▲34.0	490	▲29
親会社株主に帰属する 当期純利益	490	388	▲102	▲20.9	470	▲81
* 2024年2月9日公表						
一株当たり当期純利益 (円/株)	239.08	190.97			231.25	
R O E (%)	8.3	6.1			7.5	
R O I C※3 (%)	8.8	5.4			5.7	
為替レート(JPY/USD)	135	145			142	

※3 ROIC=経常利益/投下資本

(注) 本ページ以下に記載の数値は、金額表示は単位未満切り捨て、%表示・一株当たり指標・業績前提は単位未満四捨五入で表記しております。

4ページ、2023年度の業績概要をご覧ください。

売上高8,134億円、営業利益473億円、経常利益460億円、当期純利益388億円となりました。

2023年度 業績のポイント



対前年度 売上高+322億円、営業利益▲16億円、経常利益▲237億円、当期利益▲102億円

- 売上高： (＋) 三菱エンジニアリングプラスチックス(MEP)の連結化
(＋) 円安
(－) JSPの非連結化
(－) メタノールやアンモニアの市況下落
- 営業利益： (＋) 円安
(＋) 電子材料の需要回復
(＋) PCの採算改善
(－) POMの市況下落
(－) MXDAや芳香族アルデヒドなどの販売数量減少等
- 経常利益： メタノール市況下落や、海外メタノール生産会社の減損損失の計上※1、及び繰延税金負債の取り崩しによる一過性利益の剥落※2等により、持分法損益が悪化し減益
(※1 トリニダード・トバゴのメタノール生産会社にて計上、※2 ベネズエラのメタノール生産会社にて前期計上)
- 当期純利益： MEP連結化に伴う段階取得差益が増益要因も、営業利益・経常利益の減少により減益
- 配当： 年間80円(中間40円、期末40円※3) (前年実績および従来予想と同額)
(※3 2024年5月27日の取締役会で正式に決定予定)

5ページは、2023年度業績のポイントについて示しております。

売上高は、三菱エンジニアリングプラスチックス、以降「MEP」と表現させていただきます、その連結化や、円安などにより、増収となりました。

営業利益は、ポリアセタールの市況下落や、芳香族化学品などの販売数量減少により、減益となりました。

経常利益は、メタノール市況の下落に加え、トリニダード・トバゴのメタノール生産会社において減損損失を計上したことや、ベネズエラの生産会社において前期に計上された、繰延税金負債の取り崩しによる一過性利益が剥落したことなどから、持分法損益が大幅に悪化し、減益となりました。

当期純利益は、MEPの連結化に伴う段階取得差益の計上などが増益要因となりましたが、営業利益・経常利益の減少により、減益となりました。

なお、配当については、前年実績及び従来予想と同額の、年間80円を予定しております。

セグメント別 2022年度及び2023年度 四半期別推移



単位:億円	2022年度実績					2023年度実績				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
売上高	1,939	2,009	2,044	1,818	7,812	1,870	2,126	2,220	1,916	8,134
GEC※1(旧基礎化学品)	1,171	1,192	1,293	1,132	4,789	1,019	1,074	1,155	878	4,128
機能化学品	788	829	772	699	3,090	872	1,069	1,087	1,062	4,092
全社/調整	▲20	▲13	▲21	▲12	▲67	▲21	▲17	▲22	▲24	▲86
営業利益	188	146	118	36	490	62	158	165	86	473
GEC	76	68	44	▲1	188	32	62	69	12	177
機能化学品	120	83	80	42	326	35	106	107	81	330
全社/調整	▲9	▲4	▲6	▲4	▲24	▲5	▲10	▲11	▲7	▲35
経常利益	248	250	138	59	697	70	179	184	26	460
GEC	84	124	81	15	305	20	54	90	▲63	101
機能化学品	145	107	81	52	387	47	131	114	93	386
全社/調整	19	18	▲25	▲7	4	2	▲6	▲20	▲3	▲27

※1 2024年4月1日付で、旧基礎化学品事業部門は、「グリーン・エネルギー＆ケミカル事業部門」(GEC)に組織改定いたしました。

6ページは、セグメント別の売上高、営業利益、経常利益を四半期ごとに示しております。

なお既にご案内の通り、当社は2024年度より、旧「基礎化学品事業部門」の部門名称を「グリーン・エネルギー＆ケミカル事業部門」に変更しております。

こちらの表は2023年度実績値ではありますが、便宜上、新部門名称にて記載させていただいております。

単位:億円	2022年度実績					2023年度実績				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
売上高	1,939	2,009	2,044	1,818	7,812	1,870	2,126	2,220	1,916	8,134
天然ガス系化学品	616	577	677	600	2,471	492	483	545	634	2,155
芳香族化学品	565	624	626	540	2,357	535	598	619	253	2,006
機能化学品	596	664	642	585	2,489	735	913	912	890	3,452
特殊機能材	192	165	129	114	602	136	156	175	171	640
全社/調整	▲31	▲23	▲32	▲21	▲108	▲29	▲25	▲31	▲34	▲120
営業利益	188	146	118	36	490	62	158	165	86	473
天然ガス系化学品	38	27	17	5	88	18	22	16	28	85
芳香族化学品	38	40	27	▲7	98	13	39	53	▲15	91
機能化学品	75	54	72	39	241	16	72	63	41	194
特殊機能材	45	29	8	2	84	18	34	43	39	136
全社/調整	▲9	▲4	▲6	▲4	▲23	▲6	▲10	▲11	▲7	▲35
経常利益	248	250	138	59	697	70	179	184	26	460
天然ガス系化学品	39	81	53	26	201	5	12	33	▲51	0
芳香族化学品	44	42	28	▲11	103	15	41	57	▲12	101
機能化学品	90	73	66	50	281	24	92	65	52	234
特殊機能材	54	34	15	1	106	22	39	48	41	151
全社/調整	19	18	▲25	▲7	5	2	▲6	▲20	▲3	▲28

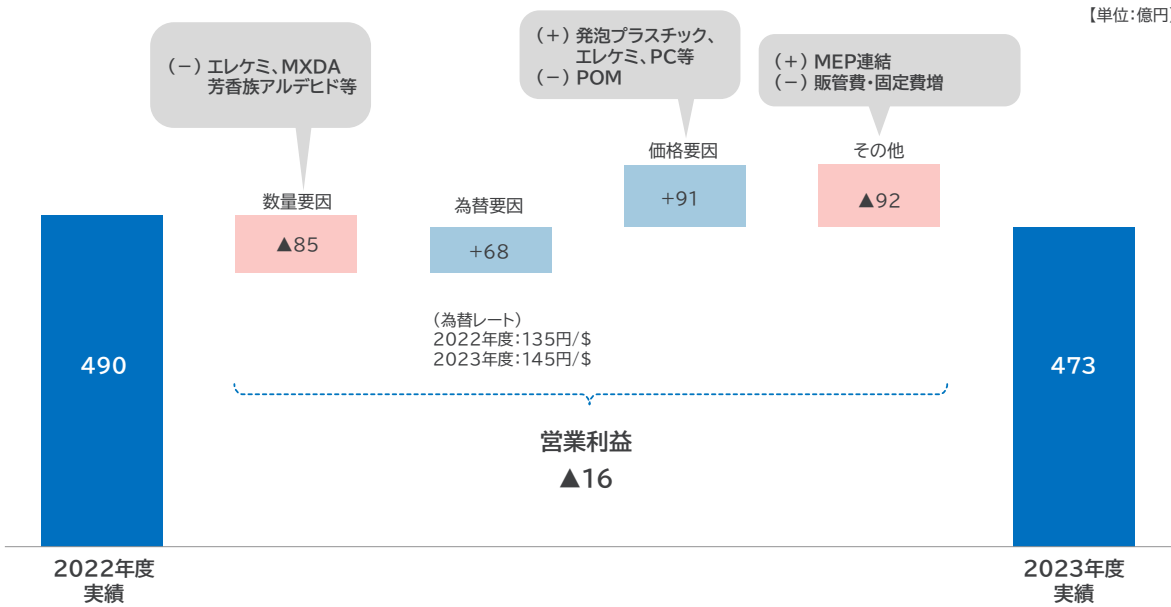
※主要製品群別セグメント(便宜的に過去のセグメントに準じて算出した参考値となります。P29 も合わせてご参照ください)

7ページは、主要製品群別の売上高、営業利益、経常利益を四半期ごとに示しております。

2023年度 営業利益 増減要因(前年度比)



【単位:億円】



三菱ガス化学株式会社

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC. | 8

8ページに、2023年度の営業利益の増減要因を、対前年度比で示しております。
後ほど、ご参照願います。

2023年度 営業外損益・特別損益



単位:億円	2022年度 実績	2023年度 実績	増 減
営業外損益	207	▲12	▲220
持分法による投資損益	175	▲56	▲232
金融収支	24	24	▲0
為替差損益	26	34	+7
その他	▲19	▲14	+4
特別利益	48	203	+156
投資有価証券売却益	37	28	▲9
受取保険金	1	14	+12
段階取得に係る差益	-	150	+150
その他	9	11	+2
特別損失	▲44	▲57	▲13
関係会社株式売却損	-	▲28	▲28
減損損失	▲11	▲14	▲3
固定資産圧縮損	-	▲7	▲7
固定資産処分損	▲8	▲3	+5
事業構造改善引当金繰入額	▲8	-	+8
関係会社株式評価損	▲8	-	+8
貸倒引当金繰入額	▲4	▲2	+2
その他	▲2	▲1	+0
特別損益合計	4	148	+143

(注) 本表の増減は対損益増減を示しております。
三菱ガス化学株式会社

持分法による投資損益
・メタノール市況下落、海外メタノール生産会社による減損損失の計上※1などにより悪化
※1 トリニダード・トバゴのメタノール生産会社 (Caribbean Gas Chemical Limited) にて減損損失74億円を計上

段階取得に係る差益
・2023年度はMEPの連結化に伴う段階取得差益を計上

関係会社株式売却損
・JSP株式売却損(連結)他

続いて、9ページに営業外損益・特別損益を記載しております。

営業外損益につきましては、先ほどご説明のとおり、トリニダード・トバゴのメタノール生産会社であるCARIBBEAN GAS CHEMICAL LIMITED、以下CGCLと呼ばせて頂きます、そちらにおいて、減損損失74億円を計上したことなどから、持分法損益が悪化し、減益となっております。

2023年度 貸借対照表



単位:億円	2023年3月末	2024年3月末	増 減
流動資産	4,832	4,631	▲201
現預金	1,083	714	▲369
売掛債権	1,766	1,656	▲109
棚卸資産	1,781	2,005	+223
その他	201	255	+54
固定資産	5,460	6,048	+587
有形固定資産	3,137	3,146	+8
無形固定資産	119	248	+128
投資その他の資産	2,203	2,653	+450
資産合計	10,293	10,680	+386

単位:億円	2023年3月末	2023年3月末	増 減
負債	3,580	3,831	+251
買掛債務	883	1,090	+206
有利子負債	1,669	1,730	+60
その他	1,027	1,011	▲16
純資産	6,712	6,848	+135
株主資本	5,738	5,876	+137
その他包括利益累計額	337	701	+363
非支配株主持分	636	270	▲365
負債・純資産合計	10,293	10,680	+386

続いて、10ページに貸借対照表、11ページにキャッシュフロー計算書を記載しております。

ご説明は省略させていただきます。

2023年度 キャッシュフロー計算書



単位:億円	2022年度	2023年度	増 減
営業キャッシュフロー	552	734	+182
投資キャッシュフロー	▲640	▲761	▲121
フリーキャッシュフロー(差引)	▲88	▲26	+61
財務キャッシュフロー	79	▲406	▲486
現金及び現金同等物に係る換算差額等	77	76	▲1
現金及び現金同等物の増減額(合計)	68	▲357	▲426
現金及び現金同等物の期首残高	922	1,011	+89
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	20	-	▲20
現金及び現金同等物の期末残高	1,011	653	▲357

1 | 2023年度 決算概要

2 | 2024年度 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

続いて、2024年度業績予想についてご説明します。

2024年度 業績予想



営業利益は、JSPの非連結化や固定費の増加などを見込むものの、半導体関連製品の販売回復などにより増益を予想

経常利益・当期利益も、メタノール市況の上昇や前期の減損損失の反動等により持分法損益の改善が見込まれ、増益を予想

単位:億円	2023年度 実績	2024年度 予想	増 減	
			金額	%
売上高	8,134	7,800	▲334	▲4.1
営業利益	473	520	+46	+9.8
(売上高営業利益率(%))	5.8	6.7		
経常利益	460	590	+129	+28.8
親会社株主に帰属する当期純利益	388	460	+71	+18.5
EBITDA	849	970		
(EBITDAマージン(%))	10.4	12.4		
一株当たり当期純利益(円/株)				
R O E (%)	6.1	6.9		
R O I C (新定義)※ (%)	3.3	6.4		
R O I C (旧定義)※ (%)	(5.4)	(6.7)		
為替レート(JPY/USD)	145	145		

※ 2024年5月10日公表の中期経営計画『Grow UP 2026』において定義を見直し。
ROIC(新定義) = (営業利益 - 法人税等 + 持分法損益) / 投下資本
ROIC(旧定義) = 経常利益 / 投下資本

13ページは、2024年度業績予想の概要を示しております。

売上高7,800億円、営業利益520億円、経常利益590億円を予想しております。

対前年度 売上高▲334億円、営業利益+46億円、経常利益+131億円、当期利益+71億円

- 売上高: JSPの非連結化影響により減収を予想
- 営業利益: (+) BT材料や無機化学品(エレケミ)などの販売数量増加
(-) JSPの非連結化
(-) 修繕費や減価償却費、研究開発費などの増加
- 経常利益: メタノール市況の上昇や減損損失の反動により海外メタノール生産会社の持分法損益の改善が見込まれることなどから、増益を予想
- 当期純利益: MEP連結化に伴う段階取得差益は剥落も、経常利益の増加により増益を予想
- 配当: 2024年度の年間配当は90円を予想(普通配当ベースで10円の増配)

■為替前提(通期): 1ドル145円、1ユーロ155円 (為替感応度(USD、概算): 1円の円安(円高)で、営業利益6億円/年、経常利益6億円/年の増益(減益))

■原油価格前提(通期): 80ドル/bbl. (原油感応度(概算): 1ドル/bbl.の下落(上昇)で、2.5億円/年の増益(減益)、メタノールへの影響は含まず)

■メタノール市況前提(通期): 345US\$/MT (メタノール感応度(概算): 1ドル/MTの上昇(下落)で、持分法利益1億円/年の増益(減益))

14ページは、2024年度業績予想のポイントを示しております。

売上高は、JSPの非連結化により、減収を予想しております。

営業利益は、JSPの非連結化影響に加え、大定修に伴う修繕費の増加や、積極的な成長投資に伴う償却費や研究開発費等の増加などが見込まれる一方、電子材料や無機化学品といった半導体関連製品を中心に販売数量の増加を織り込み、増益を予想しております。

経常利益は、メタノール市況の上昇や、CGCLの減損損失の反動などにより、海外メタノール生産会社の持分法損益の改善が見込まれ、増益を予想しております。

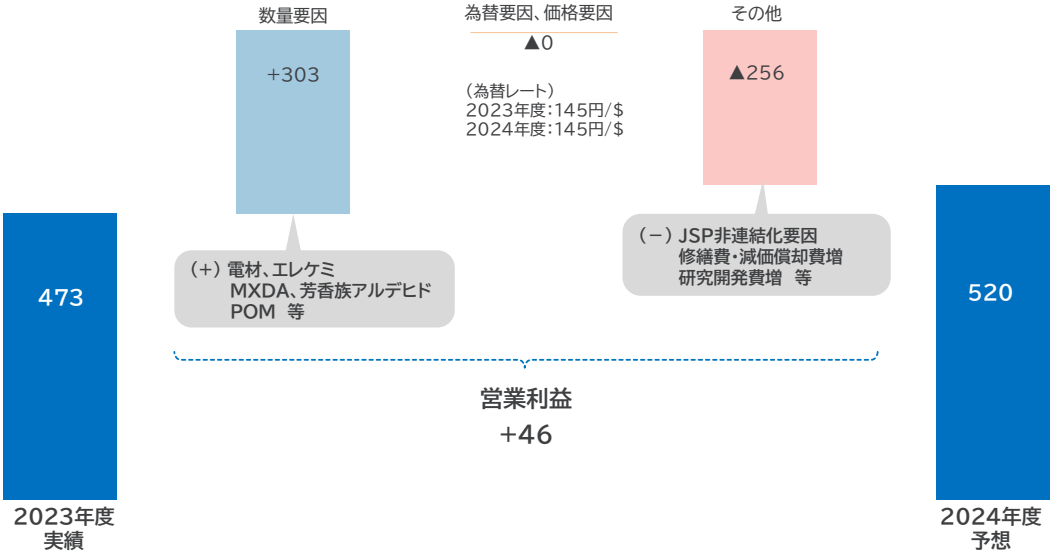
当期純利益は、2023年度に計上したMEPの段階取得差益の剥落はありますが、経常利益の増加などにより、増益を予想しております。

なお、2024年度の年間配当については、前年度から10円増配の、90円を予定しております。

2024年度 営業利益 増減要因(前年度比)



【単位:億円】



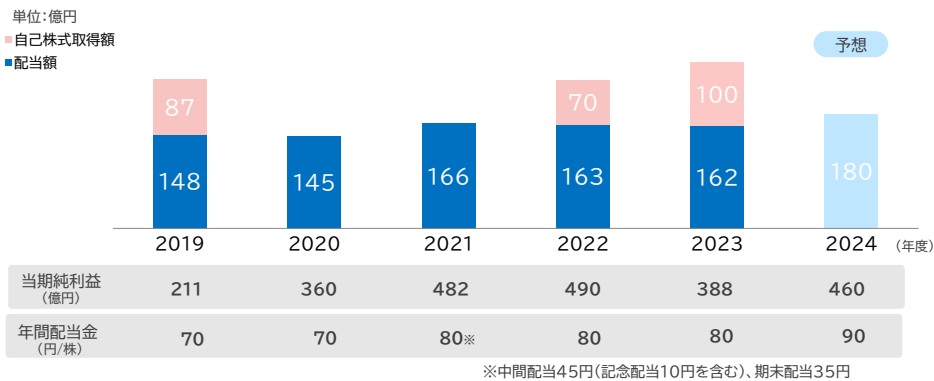
15ページは、2024年度営業利益予想の増減要因を、対前年度比で示しております。後ほど、ご参照願います。

株主還元方針・株主還元



- 内部留保の水準と株主還元の水準を勘案して、自己株式の取得も機動的に実施し、資本効率の向上と株主還元の充実を図る
 - 今中計より株主還元を強化。累進配当を導入し、総還元性向を引き上げ
- ① 累進配当方針※(原則、減配を実施せず、増配または維持)を採用
※ 中期経営計画3年間の期間を対象。年間配当金90円/株を下限とした配当維持または増配を行う。
- ② 総還元性向を前中計の「40%目安」から「50%目安」に引き上げ

・ 2024年度の配当は90円を予想(普通配当ベースで10円の増配)



三菱ガス化学株式会社

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC. | 16

16ページは株主還元について示しております。
こちらに記載の方針に基づき株主還元を実施してまいります。

本日の決算発表に合わせ、2024年度よりスタートする中期経営計画「Grow UP 2026」についても公表させていただきましたが、
株主還元方針については新たに、「原則、減配せず、増配または維持する」累進配当方針を採用しております。
さらに、総還元性向を、前中計の「40%目安」から「50%目安」に引き上げ、株主還元を強化いたします。
中期経営計画の詳細につきましては、来週5月17日に予定しております中計説明会にて、詳細をご説明申し上げます。

1 | 2023年度 決算概要

2 | 2024年度 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

続いて、セグメント別業績概要をご説明します。

セグメント別 連結 売上高・営業利益・経常利益推移



単位:億円	2022年度実績			2023年度実績			2024年度予想		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	3,949	3,863	7,812	3,996	4,137	8,134	3,700	4,100	7,800
GEC	2,363	2,425	4,789	2,094	2,034	4,128	1,552	1,709	3,261
機能化学品	1,618	1,471	3,090	1,941	2,150	4,092	2,061	2,300	4,361
全社/調整	▲33	▲34	▲67	▲39	▲47	▲86	86	90	177
営業利益	335	155	490	221	252	473	260	260	520
GEC	144	43	188	94	82	177	59	57	117
機能化学品	203	122	326	142	188	330	220	222	442
全社/調整	▲13	▲11	▲24	▲16	▲19	▲35	▲19	▲20	▲40
経常利益	499	198	697	249	210	460	300	290	590
GEC	208	96	305	74	26	101	104	94	199
機能化学品	253	134	387	178	207	386	216	216	433
全社/調整	37	▲32	4	▲4	▲23	▲27	▲21	▲21	▲43

18ページは、セグメント別の売上高、営業利益、経常利益を示しております。

参考:主要製品群別 連結 売上高・営業利益・経常利益推移(※)



単位:億円	2022年度実績			2023年度実績			2024年度予想		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	3,949	3,863	7,812	3,996	4,137	8,134	3,700	4,100	7,800
天然ガス系化学品	1,194	1,277	2,471	975	1,180	2,155	1,125	1,222	2,347
芳香族化学品	1,190	1,167	2,357	1,133	872	2,006	431	491	922
機能化学品	1,261	1,228	2,489	1,648	1,803	3,452	1,695	1,888	3,583
特殊機能材	358	244	602	293	347	640	377	423	801
全社/調整	▲54	▲53	▲108	▲55	▲65	▲120	70	74	144
営業利益	335	155	490	221	252	473	260	260	520
天然ガス系化学品	65	23	88	41	44	85	35	31	66
芳香族化学品	79	19	98	53	37	91	24	25	50
機能化学品	129	111	241	88	105	194	119	119	238
特殊機能材	74	10	84	53	83	136	100	103	204
全社/調整	▲13	▲10	▲23	▲16	▲18	▲35	▲19	▲20	▲40
経常利益	499	198	697	249	210	460	300	290	590
天然ガス系化学品	121	79	201	18	▲18	0	66	65	131
芳香族化学品	87	16	103	56	44	101	38	29	67
機能化学品	164	117	281	116	118	234	112	108	221
特殊機能材	88	17	106	61	89	151	104	108	212
全社/調整	37	▲32	▲5	▲4	▲23	▲28	▲21	▲21	▲43

※主要製品群別セグメント(便宜的に過去のセグメントに準じて算出した参考値となります。P29 も合わせてご参照ください)

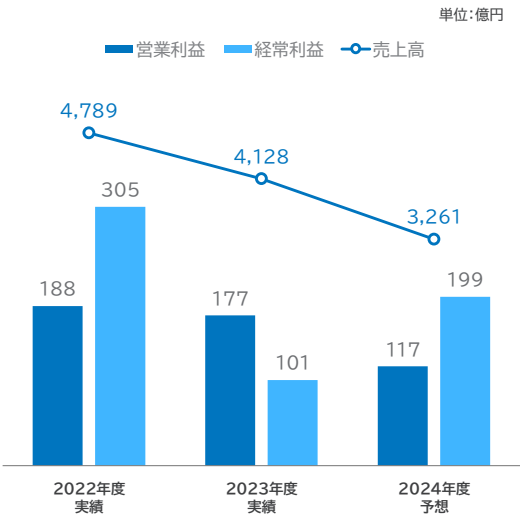
19ページは、主要製品群別の売上高、営業利益、経常利益を示しております。

2023年度実績

営業利益は、MXDAや芳香族アルデヒドなどの販売数量減、基礎化学品の市況下落などから減益。
経常利益は、メタノール市況下落や、海外メタノール生産会社の減損損失の計上、繰延税金負債の取り崩しによる一過性利益の剥落などにより、持分法損益が悪化し減益。

2024年度予想

営業利益は、JSPの非連結化や大定修に伴う固定費の増加などにより減益を予想。
経常利益は、メタノール市況の上昇や、減損損失の反動により海外メタノール生産会社の持分法損益の改善が見込まれることから、増益を予想。



20ページでは、旧基礎化学品事業である、グリーン・エネルギー＆ケミカル事業についてご説明いたします。
以降GEC（ジーイーシー）と表現させていただきます。

2023年度実績について、
営業利益は、欧州の景気減速によりMXDAなどの輸出が低迷したほか、メタノール市況が下落したことなどから、減益となりました。
経常利益は、メタノール生産会社における減損損失の計上などから持分法損益が悪化し、減益となりました。

2024年度予想について、
営業利益は、MXDAや芳香族アルデヒドなどの需要回復を織り込みますが、JSPの非連結化の影響や、大定修に伴う修繕費の増加などにより、全体では減益を予想しております。
経常利益は、メタノール市況の上昇や、減損損失の反動による持分法損益の改善を見込み、増益を予想しております。

単位:億円	2023年度実績	2024年度予想	増減
売上高	4,128	3,261	▲867
天然ガス系化学品	2,155	2,347	+191
芳香族化学品	2,006	922	▲1,083
調整	▲33	▲8	+24
営業利益	177	117	▲60
天然ガス系化学品	85	66	▲19
芳香族化学品	91	50	▲41
調整	0	0	+0
経常利益	101	199	+98
天然ガス系化学品	0	131	+131
芳香族化学品	101	67	▲33
調整	▲0	0	+0

		2023年度実績 (2022年度実績比)	2024年度予想 (2023年度実績比)
天然ガス系化学品	メタノール	市況は前期に比べ下落したことなどから減収減益(2022年度363 ^{ドル} →2023年度310 ^{ドル})	2024年度市況は345 ^{ドル} を予想。持分法利益はメタノール市況の上昇及び減損損失の反動から増益となる見通し
	メタノール・アンモニア系化学品	アンモニア等の市況下落により減収となるも、ホルマリン系事業の構造改革による採算改善等により増益	アンモニア・アミン系やMMA系製品で需要の回復を見込むも、大定修に伴う修繕費の増加などにより前期並みの損益を予想
	エネルギー資源・環境	発電用LNGの販売数量減少などが減収要因となるも、ヨウ素の販売数量増加や市況上昇により前年同期並みの損益	発電用LNGの販売数量増加による増収を予想するも、ヨウ素の増産投資に伴う償却費増加などにより減益の見通し
芳香族化学品	MXDA、芳香族アルデヒド、ポリマー材料	海外顧客の需要低迷によりMXDAや芳香族アルデヒドの販売数量が減少したことなどから減収減益	大定修に伴う修繕費の増加やMXDAオランダ製造子会社の開業費用計上などが減益要因となるも、MXDA、MXナイロンなどの販売数量回復を見込み、増益の見通し
	キシレン分離/誘導品	高純度イソフタル酸(PIA)や無水フタル酸など製品全般の販売価格下落により減収減益	需要は堅調な成長が見込まれるが、PIA市況は引き続き弱含みが想定される

※内訳は、主要製品群別セグメントを記載
三菱ガス化学株式会社

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC. | 21

21ページ、GECの業績動向を、主要事業別に示しております。

2023年度実績について、
メタノールは、世界的な需要の低迷による市況下落や、持分法会社の減損損失もあり、営業利益・経常利益とも減益となりました。

メタノール・アンモニア系化学品は、需要は全般的に低調であったものの、ホルマリン系事業の構造改革による採算改善などにより、増益となりました。

MXDAや芳香族アルデヒドは、欧州の景気減速や米国の需要低迷により販売が減少し、減益となりました。

2024年度予想について、
メタノールは、需要の回復に伴い、市況の上昇を予想しております。持分法利益も市況上昇及び前期の減損損失の反動もあり、増益を見込みます。

メタノール・アンモニア系化学品は、需要回復を想定するものの、大定修による固定費の増加などにより、2023年度並みの損益を予想します。

エネルギー資源・環境事業は、ヨウ素の販売は堅調に推移すると見込む一方、増産投資に伴う償却費の増加などにより、減益の見通しです。

MXDAや芳香族アルデヒドは、MXDAのオランダ製造子会社の開業費用計上など、コスト増を見込みますが、販売数量の回復を織り込み、増益を予想いたします。

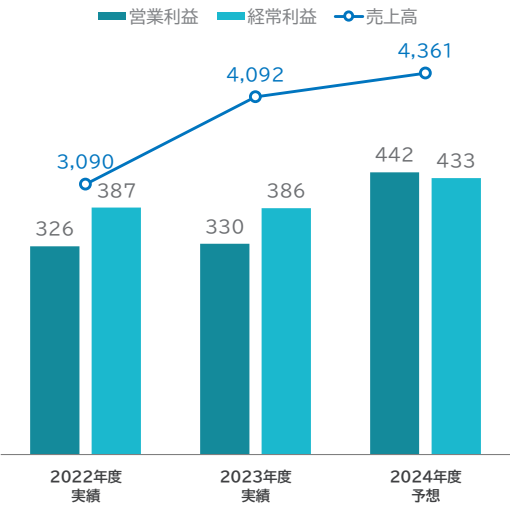
単位:億円

2023年度実績

売上高は、MEPの連結化などにより増収。
営業利益はPCの採算改善やBT材料の需要回復などが増益要因となるも、POMの市況下落などにより前期並みに。

2024年度予想

営業利益は、BT材料の更なる販売数量増加及び無機化学品(エレケミ)の需要回復などを織り込み、増益を予想。



続いて22ページをご覧ください。機能化学品事業についてご説明します。

2023年度実績について、
売上高は、今期からMEPを連結化したことにより、増収となりました。
営業利益は、タイや上海等のポリカーボネート生産拠点の採算改善や、BT材料などの需要回復が増益要因となりましたが、ポリアセタールの市況下落などにより、全体では前期並みとなりました。

2024年度予想について、
営業利益は、BT材料やOPEなどの電子材料の更なる販売増や、エレケミの需要回復を見込み、増益を予想しております。

単位:億円	2023年度実績	2024年度予想	増減
売上高	4,092	4,361	+269
機能化学品	3,452	3,583	+131
特殊機能材	640	801	+160
調整	▲0	▲23	▲22
営業利益	330	442	+111
機能化学品	194	238	+44
特殊機能材	136	204	+67
調整	0	0	▲0
経常利益	386	433	+46
機能化学品	234	221	▲13
特殊機能材	151	212	+60
調整	0	0	▲0

※内訳は、主要製品群別セグメントを記載

三菱ガス化学株式会社

		2023年度実績 (2022年度実績比)	2024年度予想 (2023年度実績比)
機能化学品	無機化学品	半導体向け薬液において、原燃料価格や輸送費の上昇等を販売価格への転嫁したことなどにより増収増益	半導体向け薬液はメモリ向けを含めた需要回復に支えられ、主要顧客向けの販売数量増加により増益を予想
	エンジニアリングプラスチック	PCはMEP連結化や高付加価値品の販売増等により採算改善するも、POMの市況下落により、全体では減益	PCは厳しい事業環境が続くが、高付加価値品の数量増、シートフィルム事業の構造改善などから増益を見込む。POMは自動車分野をはじめとして緩やかな需要回復を想定し増益を予想
	光学材料	光学樹脂ポリマーの主用途であるスマホにおいて、新機種の生産の立ち上がった2Q以降、需要の回復基調が続き、増収増益	スマホ需要は緩やかな回復が継続と予想。高機能化トレンドの進展も後押しとなり増益を見込む
特殊機能材	電子材料	BT材は、スマホ向け材料やPC向け材料の需要が回復したことなどにより増収増益	BT材は半導体市場の成長に伴い用途全般にわたり販売数量が増加し増収増益を予想。OPEもAIサーバー市場の拡大に伴い成長が続く見通し
	脱酸素剤	国内食品用途における巣ごもり需要の反動や、原材料価格が上昇するも、円安による輸出価格改善影響などにより前年同期並みの損益	訪日外国人観光客や行楽客の増加により食品用途の需要増を見込む。販売価格へのコスト転嫁努力も織り込み、増益を予想

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC. | 23

23ページに、機能化学品事業の業績動向を、主要事業別に示しております。

2023年度実績について、

無機化学品は、半導体薬液の需要は低迷が続いたものの、原燃料価格や輸送費上昇分の販売価格への転嫁などにより、増益となりました。

エンブラは、ポリカーボネートは高付加価値品の販売増などにより採算が改善し、増益となりましたが、ポリアセタールは市況下落の影響が大きく、全体では減益となりました。

光学樹脂ポリマーは、スマホ新機種向けなどの需要の回復基調が続き、増益となりました。

電子材料は、BT材料など、スマホ・PC向けの需要が回復したことなどから、増益となっております。

2024年度予想について、

無機化学品は、メモリ向け等も含め、薬液需要の回復を予想し、増益を見込んでおります。

エンブラは、まずポリカーボネートは、引き続き厳しい事業環境が想定されるものの、高付加価値品の更なる拡販に加え、本日の中計でも公表しておりますが、MGCフィルシート大阪工場の撤退など、シートフィルム事業の構造改革も進め、増益を予想いたします。またポリアセタールについても、自動車分野をはじめとして緩やかな需要の回復を想定し、増益を予想しております。

光学材料は、引き続きスマートフォン需要の緩やかな回復を予想するとともに、高機能化トレンドの更なる進展による、当社材料の採用増を織り込み、増益を見込んでおります。

電子材料は、半導体市場の成長に伴い引き続きBT材料の需要の増加を見込むほか、AIサーバー市場の拡大に伴い、OPEも成長が続くと想定し、増収増益を予想しております。

データ集

参考:各種指標 (1)



単位:億円	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024(予)
設備投資額	305	350	309	392	423	402	547	646	817	940
[上期]	[149]	[137]	[139]	[186]	[224]	[158]	[220]	[312]	[380]	[440]
減価償却費	267	256	270	274	295	306	319	335	363	350
[上期]	[131]	[122]	[131]	[135]	[144]	[151]	[158]	[161]	[183]	[160]
研究開発費	189	192	189	186	196	199	210	235	256	285
[上期]	[92]	[96]	[95]	[91]	[94]	[98]	[101]	[111]	[126]	[155]
年度末人員(人)	8,176	8,034	8,009	8,276	8,954	8,998	9,888	10,050	7,918	8,166
一株当たり当期純利益 (円/株)*	154	222	281	257	101	173	232	239	191	230
ROA (%)	5.9	8.4	10.6	8.7	3.9	6.2	8.4	7.1	4.4	5.4
ROE(%)	9.0	12.0	13.6	11.3	4.3	7.1	8.8	8.3	6.1	6.9
ROIC(新定義)*1(%)	7.0	9.6	12.1	9.5	3.6	6.2	7.4	6.4	3.3	6.4
ROIC(旧定義)*1(%)	(7.3)	(10.4)	(13.2)	(10.9)	(4.9)	(7.7)	(10.4)	(8.8)	(5.4)	(6.7)
売上高営業利益率(%)	5.7	7.9	9.9	6.4	5.6	7.5	7.8	6.3	5.8	6.7
EBITDA*2	746	894	1,088	976	616	817	1,070	1,050	849	970
配当金(円/株)*3	32.0	38.0	59.0	70.0	70.0	70.0	80.0※	80.0	80.0	90.0
[うち2Q末]	[16.0]	[16.0]	[24.0]	[35.0]	[35.0]	[35.0]	[45.0※]	[40.0]	[40.0]	[45.0]

※記念配当10円を含む

*1 2024年5月10日公表の中期経営計画「Grow UP 2026」において定義を見直し。
ROIC(新定義) = (営業利益 - 法人税等 + 持分法損益) / 投下資本
ROIC(旧定義) = 経常利益 / 投下資本
*2 EBITDA = 経常利益 + 減価償却費 + 支払利息
*3 当社は2016年10月1日に株式併合(2株→1株)を実施しております。一株当たり当期純利益および配当金については、株式併合前においても当該併合が行われたと仮定した遡及修正による数値を表示しております。

参考:各種指標（2）セグメント別 設備投資額・減価償却費（連結）



単位:億円		2015	2016	2017	2018	2019		2020	2021	2022	2023
設備投資額※	天然ガス系化学品	53	90	60	57	72	GE&C	197	192	320	370
	芳香族化学品	106	105	113	146	150					
	機能化学品	99	81	110	144	146	機能化学品	186	326	286	419
	特殊機能材	38	66	19	23	26					
	その他	7	5	6	21	27	その他	18	29	39	27
	合計	305	350	309	392	423	合計	402	547	646	817
減価償却費	天然ガス系化学品	61	50	51	55	63	GE&C	164	171	179	173
	芳香族化学品	82	85	85	87	95					
	機能化学品	88	86	91	87	87	機能化学品	130	130	137	168
	特殊機能材	30	30	35	36	38					
	その他	3	3	5	8	10	その他	11	17	18	20
	合計	267	256	270	274	295	合計	306	319	335	363

※固定資産計上ベース

参考:各種指標（3）



	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度 予想
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	
為替(JPY/USD)	107	105	110	115	134	137	141	148	145
為替(JPY/EUR)	121	126	131	130	139	143	153	160	155
原油価格(Dubai) (US\$/BBL)	37	52	69	87	102	83	82	82	80
メタノール (US\$/MT) アジアスポット平均価格	194	319	370	428	375	351	297	324	345
原料キシレン(US\$/MT)	420	560	780	875	1,105	925	960	910	880
ビスフェノールA (US\$/MT)*	900 ~1,450	1,400 ~3,300	2,750 ~3,700	2,100 ~3,150	1,450 ~2,200	1,250 ~1,700	1,150 ~1,400	1,250 ~1,350	1,200 ~1,350
ポリカーボネート (US\$/MT)*	1,500 ~2,150	2,100 ~4,000	3,100 ~4,050	2,650 ~3,650	1,950 ~2,900	1,800 ~2,200	1,650 ~1,900	1,700 ~1,900	1,700 ~1,850

*期間中の最小値および最大値を記載

感応度(概算)

為替(USD) : 1円の円高(円安)で、営業利益6億円/年、経常利益6億円/年の減益(増益)

為替(EUR) : 1円の円高(円安)で、営業利益1億円/年、経常利益1億円/年の減益(増益)

原油(Dubai) : 1ドル/bbl.の上昇(下落)で、2.5億円/年の減益(増益)、メタノールへの影響は含まず

メタノール : メタノール市況1ドル/MTの上昇(下落)で、持分法利益1億円/年の増益(減益)

報告セグメント	主要製品群 (旧セグメント)	主要製品
グリーン・エネルギー & ケミカル (旧基礎化学品)	天然ガス系化学品	・メタノール ・メタノール/アンモニア系化学品(アンモニア・アミン類、MMA系製品、ホルマリン・ポリオール系製品、等) ・エネルギー資源・環境事業
	芳香族化学品	・MXDA、芳香族アルデヒド、ポリマー材料(MXナイロン等) ・キシレン分離/誘導品(メタキシレン、高純度イソフタル酸(PIA)等)
機能化学品	機能化学品	・無機化学品(エレクトロニクスケミカルズ(超純過酸化水素、ハイブリッドケミカル)、過酸化水素等) ・エンジニアリングプラスチック(ポリカーボネート/シートフィルム、ポリアセタール等) ・光学材料(光学樹脂ポリマー、超高屈折レンズモノマー等)
	特殊機能材	・電子材料(半導体パッケージ用BT材料、OPE等) ・脱酸素剤(エージレス®等)

見通しに関する注意事項

当資料に記載されている計画、目標等の将来に関する記述は、作成時点において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて判断したものであり、不確実性を内包するものです。実際の業績等は、様々な要因によりこうした将来に関する記述とは大きく異なる可能性があります。

本資料に関するお問い合わせ先

三菱ガス化学株式会社
CSR・IR部 IRグループ

TEL 03-3283-5041

URL <https://www.mgc.co.jp/>



IRメール配信サービス

適時開示やIRに関する最新情報について、
メールでお知らせいたします。ぜひご登録ください。

